

2020年度業務実績報告書

提出日 令和3年 1月 5日

1. 職名・氏名 准教授 河部壮一郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 東京大学、授与年 2013年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 恐竜学（2単位）1, 2, 3年；地球生命史学（2単位）1, 2, 3年；生物科学（2単位）1, 2, 3年； 生物進化学（2単位）M1, M2年；地球環境史学（2単位）M1, M2年；古生物学専攻演習Ⅰ（2 単位）M1年；古生物学専攻演習Ⅱ（2単位）M2年；古生物学専攻実験Ⅰ（2単位）M1年；古 生物学専攻実験Ⅱ（2単位）M2年
②内容・ねらい 恐竜をはじめとした古生物の進化の流れを理解するとともに、古生物から引き継がれた現在の 動物の形態の機能的意義を理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 できるだけ広い分類群を扱うことで、興味をより持ちやすくしている。
(2)その他の教育活動
内容 恐竜を学ぶ（放送大学面接授業） 福井県立恐竜博物館でのセミナーや展示解説

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 「グレゴリー・ポール 恐竜事典 原著第2版」, 共訳 (p255–287), 2020 年, 共立出版. 「きょうりゅうライバルずかんーティラノサウルス・トリケラトプス」, 監修, 2020 年, 学研プラス. 【2 本】
②学術論文 (査読あり) 1. Endocranial anatomy of the ceratopsid dinosaur Triceratops and interpretations of sensory and motor function. 共著 (Sakagami, R., <u>Kawabe, S.</u>), PeerJ (8), 2020 年 9 月 2. A re-examination of dinosaur trackmakers based on three-dimensional quantitative data from the Lower Cretaceous Tetori Group of the Oshirakawa Area, Gifu Prefecture (Japan). 共著 (Tsukiji, T., <u>Kawabe, S.</u>, Azuma, Y.), Paleontological Research (24), 2020 年 7 月 3. Tempo and pattern of avian brain size evolution. 共著 (Ksepka, D., <u>Kawabe, S.</u> (19 番目)ほか 35 名), Current Biology (30), 2020 年 6 月 4. Avian palaeoneurology: reflections on the eve of its 200th anniversary. 共著 (Knoll, F., <u>Kawabe, S.</u>), Journal of Anatomy (236), 2020 年 2 月 【4 本】
③その他論文 (査読なし) 1. 徳島県勝浦町の下部白亜系立川層より発見された竜脚類恐竜の歯, 共著 (辻野泰之, 東 洋一, 宮田和周, 中尾賢一, 藺田哲平, <u>河部壮一郎</u>, 出山康代, 田上浩久, 田上竜熙), 徳島県立博物館研究報告 (30), 2020 年 3 月 【1 本】
④学会発表等 1. アノールトカゲにおける尾椎の機能形態学的研究, 日本爬虫両棲類学会第 59 回大会 (2020 年 12 月), 共同 (佐野瑞穂・<u>河部壮一郎</u>) *2. Effects of structural constraints of skull on brain morphology in birds: a case study with the temporal fossa, Society of Vertebrate Paleontology, 80st Annual Meeting (2020 年 10 月), 単独. *3. The brain and inner ear of derived pterosaurs have similar morphometrics to those of birds, Society of Vertebrate Paleontology, 80st Annual Meeting (2020 年 10 月), 共同 (<u>Kawabe, S.</u>, Knoll, F.) 【3 件】
⑤その他の公表実績 1. マイクロフォーカス X 線 CT を用いた恐竜研究, 認定 NPO 法人総合画像研究支援 (IIRS) 第 13 回可視化技術ワークショップ, 2020 年 10 月. 【1 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
科研費基盤研究 C (共同)「比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元」2018～2021 年度
(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

研究員、福井県立恐竜博物館、2018 年～

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など